

平成26年3月期 第2四半期
決算補足説明資料
(連結)

平成25年11月8日

目次

中期経営方針「事業構造改革」の概要	… 3	補足資料	
事業構造改革による損益構造の変化	… 4	平成26年3月期 業績予想(通期)	…16
事業構造改革の推進状況と当期経営方針	… 5	サービス別売上高予想(通期)	…17
損益計算書	… 6	営業費用予想(通期)	…18
サービス別売上高	… 7		
営業費用	… 8		
損益計算書(四半期推移)	… 9		
サービス別売上高(四半期推移)	…10		
営業費用(四半期推移)	…11		
貸借対照表	…12		
キャッシュ・フロー	…13		
お問い合わせ	…14		

中期経営方針「事業構造改革」の概要

中期経営方針

(平成24年3月期 開始)

新商材クラウドパッケージの販売開始を機に実行する
当社グループの「**事業構造改革**」の推進

事業構造改革

安定したストック型ビジネスへの転換に向けた改革

ビジネスモデル改革

主力商材変更により、
ビジネスモデルをフロー型からストック型へ転換

損益構造改革

収益及びコストの両面から構造改革に取り組み、
損益構造を数年間で抜本的に改革

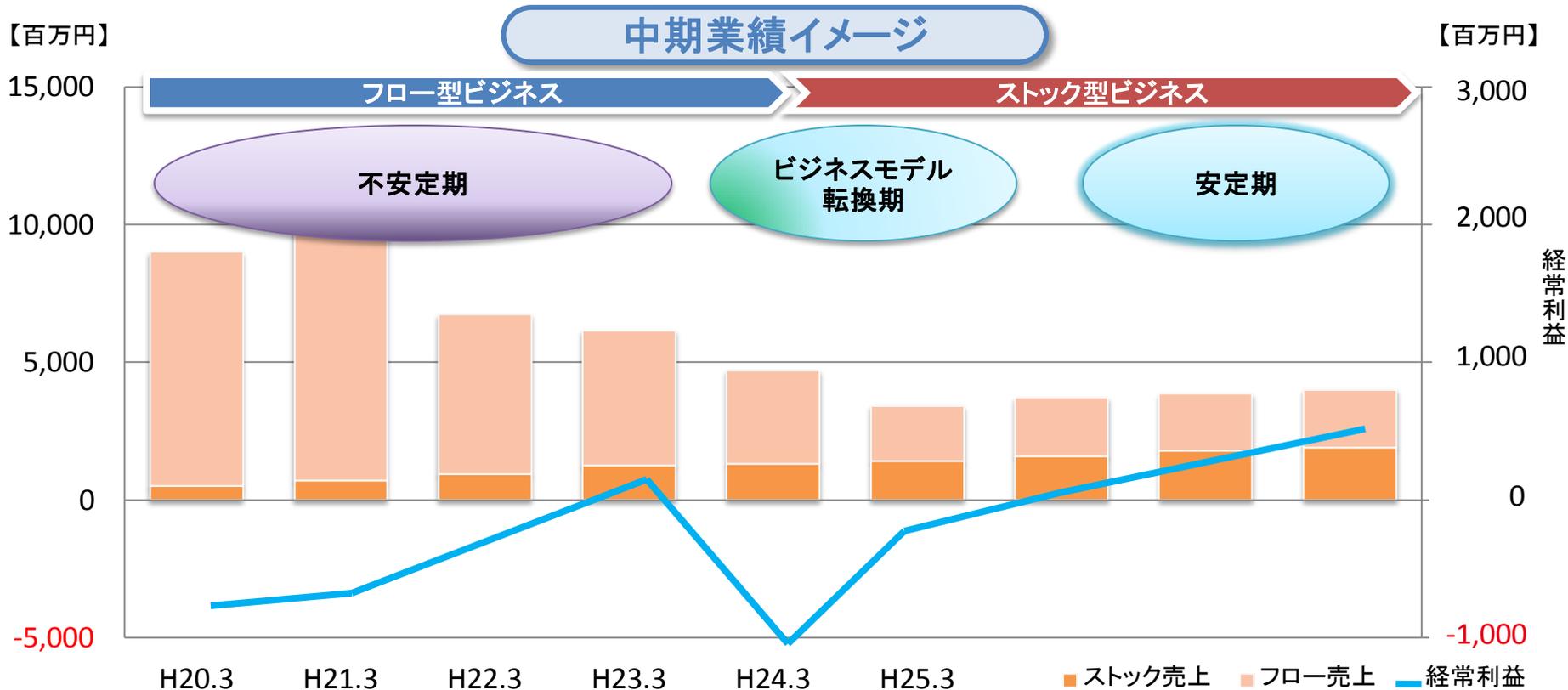
収益構造改革

ストック型ビジネスへの転換により、
中期安定的な収益構造へ転換

コスト構造改革

営業費用(売上原価及び販管費)の最適化により、
コスト構造を改善

事業構造改革による損益構造の変化



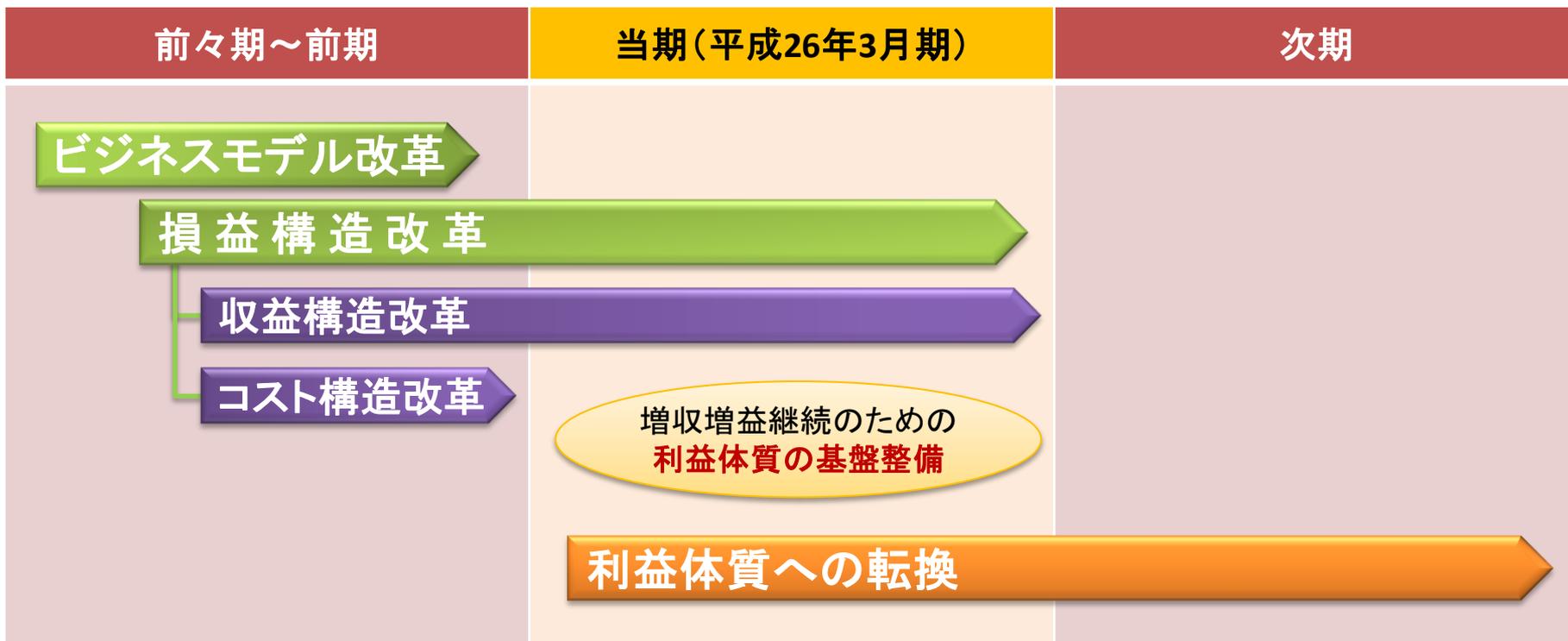
売上高(中期業績イメージ)

ストック型ビジネスへの転換期において、**一時的に減少** その後はストック売上が積み上がり、**安定成長**

経常利益(中期業績イメージ)

売上高減少期において、**短期的に赤字を計上** その後は売上高の成長に合わせて**安定的に利益確保**

事業構造改革の推進状況と当期経営方針



経営方針

事業構造改革の完遂と利益体質への転換

損益計算書

事業構造改革の進展に伴い、**損益が大幅に改善し、各区分利益が黒字化**

【単位:百万円】	H25.3 2Q累計	売上比	H26.3 2Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上高	2,057	100.0%	2,199	100.0%	+6.9%	+141
売上原価	576	28.0%	526	24.0%	△8.6%	△49
売上総利益	1,481	72.0%	1,672	76.0%	+12.9%	+191
販管費	1,803	87.6%	1,618	73.6%	△10.2%	△184
営業利益(△損失)	△321	△15.6%	53	2.4%	—	+375
経常利益(△損失)	△193	△9.4%	82	3.7%	—	+275
四半期純利益(△純損失)	△209	△10.2%	68	3.1%	—	+277

- » ホームページソリューション売上の増加により、**売上高が6.9%増加**
- » 加えて、コスト最適化の効果により、**営業費用が9.8%減少**
- » 結果、事業構造改革の進展に伴い、**損益が大幅に改善し、各区分利益が全て黒字化**

サービス別売上高

ホームページソリューションの売上高が堅調に推移し、**売上高は増加**

【単位:百万円】	H25.3 2Q累計	構成比	H26.3 2Q累計	構成比	対前期 増減率	対前期 差額
ホームページソリューション	1,728	84.0%	1,869	85.0%	+8.2%	+141
ストック売上	677	32.9%	743	33.8%	+9.8%	+66
フロー売上	1,051	51.1%	1,126	51.2%	+7.1%	+74
IT支援	329	16.0%	329	15.0%	+0.1%	+0
売上高	2,057	100.0%	2,199	100.0%	+6.9%	+141

※1:ホームページソリューションは、旧商材ITパッケージと新商材クラウドパッケージの売上高を示します。

※2:ストック売上は、サービス料(月額課金)の売上高を示します(前期・当期ともに、旧商材と新商材の売上です)。

※3:フロー売上は、初期導入費用(導入初月に一括計上)の売上高を示します(前期・当期ともに、新商材のみの売上です)。

※4:IT支援は、ヤフー商材、WEB広告、WEB制作及びその他の売上高を示します。

- » ストック売上比率の高いクラウドパッケージの契約アカウント数の増加等により、**ストック売上は9.8%増加**
- » 営業生産性の向上等により、**フロー売上も7.1%増加**
- » 結果、ホームページソリューションの売上が8.2%増加し、**売上高が6.9%増加**

営業費用

コスト構造改革の進展に伴い、増収にもかかわらず、**営業費用は減少**

【単位:百万円】	H25.3 2Q累計	売上比	H26.3 2Q累計	売上比	対前期 増減率	対前期 差額
売上原価	576	28.0%	526	24.0%	△8.6%	△49
人件費	1,151	56.0%	1,005	45.7%	△12.7%	△146
地代家賃	118	5.8%	118	5.4%	△0.1%	△0
旅費交通費	104	5.1%	110	5.0%	+5.3%	+5
その他販管費	428	20.8%	384	17.5%	△10.1%	△43
販管費	1,803	87.6%	1,618	73.6%	△10.2%	△184
営業費用	2,379	115.6%	2,145	97.6%	△9.8%	△234

- » コスト圧縮の推進により、**売上原価は8.6%減少**
- » 前期に取り組んだコスト圧縮効果が発揮されたことにより、**販管費も10.2%減少**
- » 結果、コスト構造改革の進展に伴い、**営業費用は9.8%減少**

損益計算書(四半期推移)

前四半期比で経常利益が減少するも、**2四半期連続での黒字化を達成**



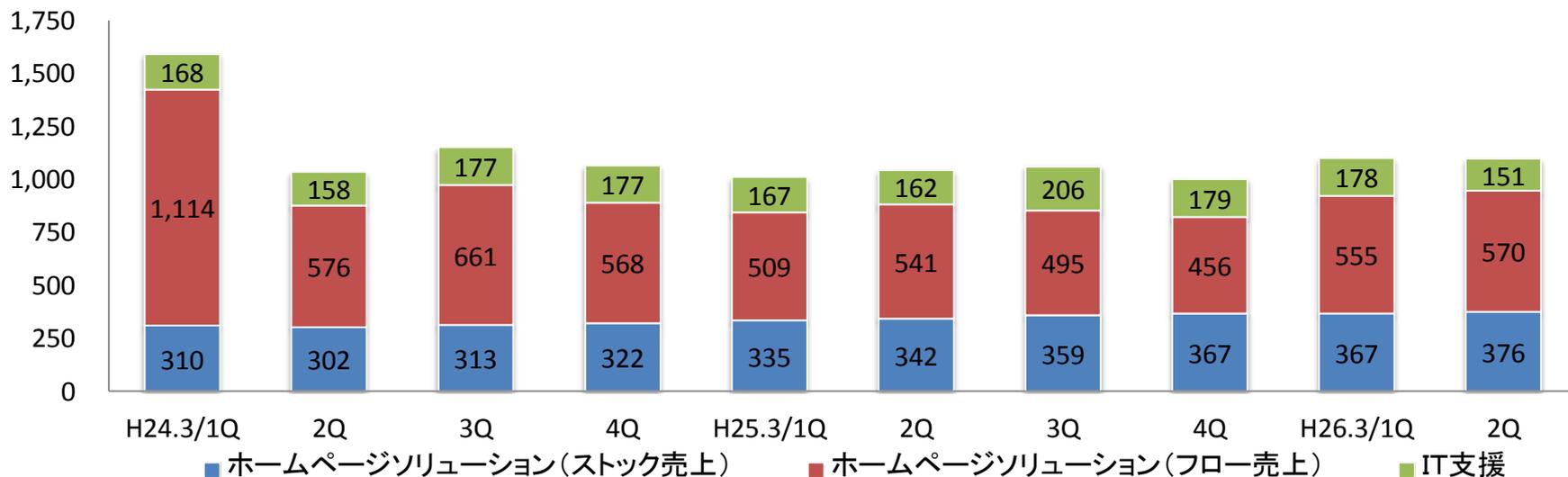
第2四半期の状況 (前四半期比較)

- » 営業外収益の減少に加え、営業費用の増加等により、**経常利益が減少**
- » しかしながら、事業構造改革に着手して以来初の**2四半期連続での黒字化を達成**

サービス別売上高(四半期推移)

IT支援の売上高の減少により、**前四半期比で横ばい**

【百万円】



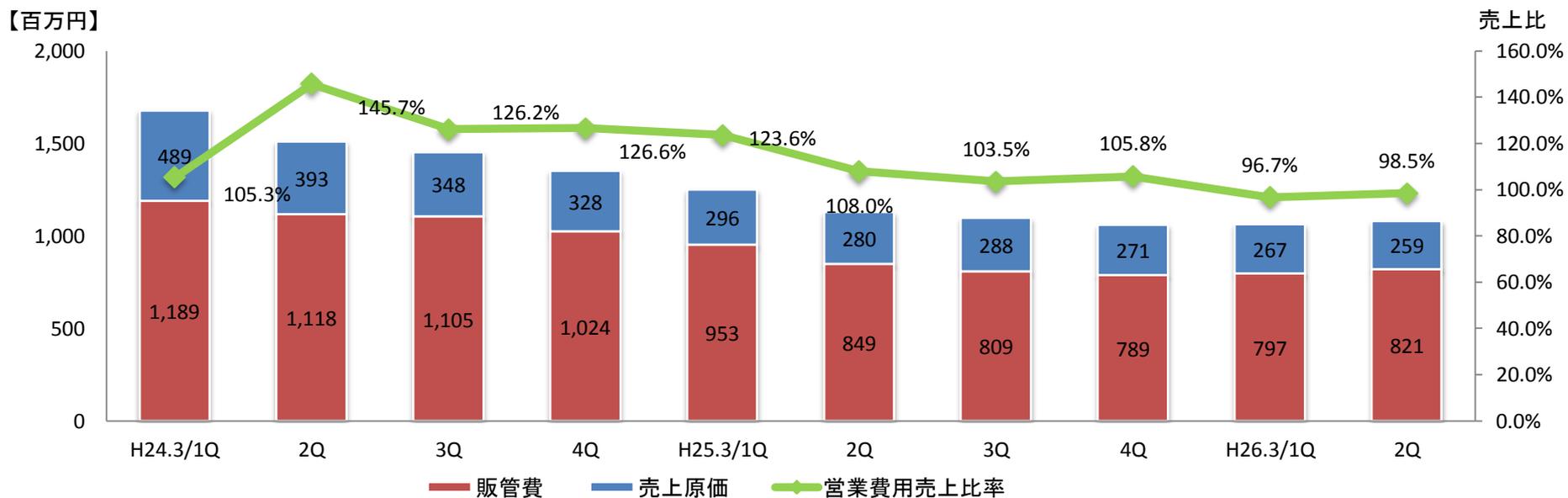
第2四半期の状況 (前四半期比較)

- » ストック型の新商材の契約顧客アカウント数の増加等により、**ストック売上が増加**し、また、営業生産性の向上等により、**フロー売上也堅調に推移**した結果、**ホームページソリューションの売上は2.6%増加**
- » 一方、商材・サービスの見直しにより、**IT支援の売上が15.4%減少**したため、**売上高は0.3%減少**

営業費用(四半期推移)

販管費の増加により、**前四半期比で増加**

営業費用	1,678	1,511	1,453	1,352	1,250	1,129	1,098	1,060	1,064	1,080
売上比	105.3%	145.7%	126.2%	126.6%	123.6%	108.0%	103.5%	105.8%	96.7%	98.5%



第2四半期の状況（前四半期比較）

- » コスト圧縮の推進等により、**売上原価は3.0%減少**
- » コスト圧縮の一方で、営業体制強化を目的としたコスト等を投下したことにより、**販管費は3.0%増加**
- » 結果、**営業費用は1.5%増加**

貸借対照表

純資産が増加し、財務体質の改善が進展

【単位:百万円】	H25.3末	構成比	H25.9末	構成比	対前期末 増減率	対前期末 差額
流動資産	1,708	56.3%	1,680	57.5%	△1.7%	△28
固定資産	1,323	43.7%	1,241	42.5%	△6.2%	△81
資産 合計	3,032	100.0%	2,922	100.0%	△3.6%	△110
流動負債	882	29.1%	705	24.1%	△20.1%	△177
固定負債	3	0.1%	3	0.1%	0%	±0
負債 合計	886	29.2%	709	24.3%	△20.0%	△177
純資産 合計	2,145	70.8%	2,212	75.7%	+3.2%	+67
負債・純資産 合計	3,032	100.0%	2,922	100.0%	△3.6%	△110

- » 受取手形及び売掛金の減少、ソフトウェアの減少等により、**資産は減少**
- » 未払金の減少等により、**負債も減少**
- » 四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等により、**純資産は増加**

キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローが黒字化し、現金及び現金同等物が増加

【単位：百万円】	H25.3 2Q累計	H26.3 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	△325	+101
投資活動によるキャッシュ・フロー	△65	△62
財務活動によるキャッシュ・フロー	△500	+0
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	△891	+38
現金及び現金同等物の期末残高	1,175	1,362

- » 税引前四半期純利益の計上等により、**営業CFが黒字化**
- » 主力商材の開発推進等による無形固定資産の取得等より、**投資CFはマイナス**
- » 結果、営業CFのプラス幅の方が大きく、**現金及び現金同等物の期末残高が増加**

お問い合わせ先

株式会社アイフラッグ 管理部 (IR担当)

Tel 03-5733-4492

Mail ir@iflag.co.jp

IRインフォメーション

株式会社アイフラッグ IRページ

<http://www.iflag.co.jp/ir.html>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する情報は、本資料の作成時点において、当社が入手している情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいておりますが、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は、様々な要因により、本資料に記載されている情報と大きく異なる可能性があります。

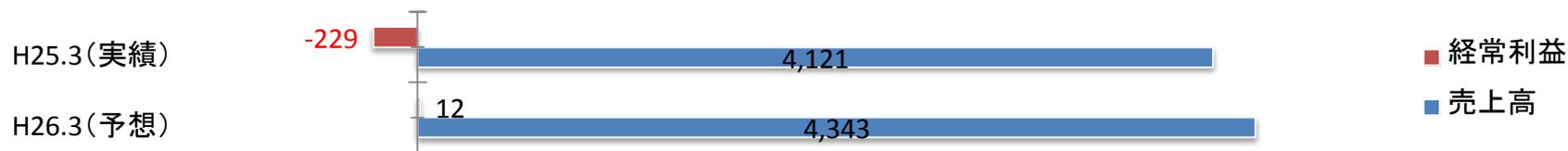
当社といたしましては、投資家の皆様にとって重要と考えられる情報について、その積極的な開示に努めてまいります。本資料の業績見通し等のみに全面的に依拠してご判断されることはくれぐれもお控えになられるようお願いいたします。

なお、いかなる目的であれ、本資料を無断で複製、または転送等を行われぬようお願いいたします。

補足資料

平成26年3月期 業績予想(通期)

【単位:百万円】	H25.3通期 (実績)	売上比	H26.3通期 (予想)	売上比	対前期 増減率	対前期 増減額
売上高	4,121	100.0%	4,343	100.0%	+5.4%	+221
売上原価	1,136	27.6%	1,109	25.5%	△2.4%	△27
売上総利益	2,984	72.4%	3,234	74.5%	+8.4%	+249
販管費	3,402	82.5%	3,229	74.3%	△5.1%	△172
営業利益(△損失)	△417	△10.1%	5	0.1%	—	+422
経常利益(△損失)	△229	△5.6%	12	0.3%	—	+241
当期純利益(△純損失)	△264	△6.4%	0	0.0%	—	+264

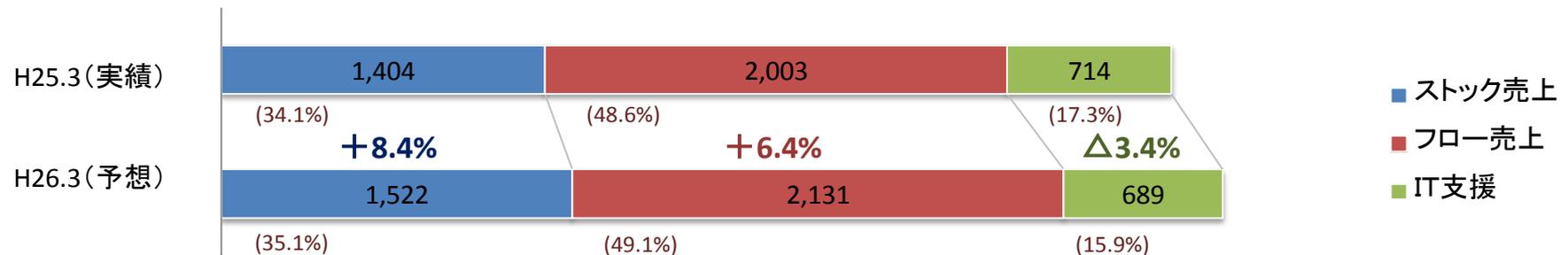


通期の予想 (H25.3期比較)

- » 収益構造改革の進展等により、**売上高が5.4%増加の見込み**
- » コスト構造改革の進展等により、**営業費用は4.4%減少の見込み**
- » 結果、損益が大幅に改善し、**各区分利益が黒字化する見通し**

サービス別売上高予想(通期)

【単位:百万円】	H25.3通期 (実績)	構成比	H26.3通期 (予想)	構成比	対前期 増減率	対前期 増減額
ホームページソリューション	3,407	82.7%	3,653	84.1%	+7.2%	+246
ストック売上	1,404	34.1%	1,522	35.1%	+8.4%	+118
フロー売上	2,003	48.6%	2,131	49.1%	+6.4%	+128
IT支援	714	17.3%	689	15.9%	△3.4%	△24
売上高	4,121	100.0%	4,343	100.0%	+5.4%	+221



通期の予想 (H25.3期比較)

- » ストック売上の比率の高い新商材の契約顧客アカウント数の増加等により、**ストック売上が8.4%増加の見込み**
- » 営業生産性の向上等により、**フロー売上也6.4%増加の見込み**
- » 結果、IT支援はほぼ同水準の見込みであるため、**売上高は5.4%増加の見通し**

営業費用予想(通期)

【単位:百万円】	H25.3通期 (実績)	売上比	H26.3通期 (予想)	売上比	対前期 増減率	対前期 増減額
売上原価	1,136	27.6%	1,109	25.5%	△2.4%	△27
人件費	2,144	52.0%	1,987	45.8%	△7.3%	△156
地代家賃	236	5.7%	236	5.5%	△0.1%	△0
旅費交通費	208	5.0%	205	4.7%	△1.2%	△2
その他販管費	812	19.7%	799	18.4%	△1.6%	△13
販管費	3,402	82.5%	3,229	74.3%	△5.1%	△172
営業費用	4,538	110.1%	4,338	99.9%	△4.4%	△200

通期の予想 (H25.3期比較)

- » H25.3期以前に取り組んだコスト圧縮の効果が通年で発揮されることに加え、H26.3期においても引き続きコストのコンパクト化を進めることにより、**販管費が5.1%減少する見込み**
- » 結果、売上原価はほぼ同水準の見込みであるため、**営業費用は4.4%減少する見通し**